令和５年度　大東市総合計画・総合戦略審議会　会議要旨

１．開催日時　令和６年２月１９日（月）午前１０時００分

２．開催場所　大東市役所　本庁舎２階　委員会室

３．出席者

審議会委員

・１号委員（市議会議員）	東　健太郎	委員
・１号委員（市議会議員）	木田　信幸	委員
・１号委員（市議会議員）	水落　康一郎	委員
・１号委員（市議会議員）	光城　敏雄	委員
・２号委員（学識経験者）	三吉　修	委員
・２号委員（学識経験者）	澤登　千恵	委員（オンライン）
・３号委員（行政機関）	松本　龍	委員（欠席）
・４号委員（市民代表者）	森本　昌典	委員
・４号委員（市民代表者）	髙島　登	委員
・４号委員（市民代表者）	森岡　裕介	委員
・４号委員（市民代表者）	藏前　芳治	委員
・４号委員（市民代表者）	田畑　裕	委員
・４号委員（市民代表者）	古久保　仁子	委員
・４号委員（市民代表者）	豊芦　勝子	委員
・４号委員（市民代表者）	大橋　怜奈	委員

事務局

・政策推進部長	野村　政弘
・政策推進部総括次長	田中　知子
・政策推進部戦略企画課長	福田　悦子
・政策推進部戦略企画課上席主査	北谷　友香
・政策推進部戦略企画課上席主査	廣田　菜美
・政策推進部戦略企画課	古橋　紗良

４．案件

・「幸せデザイン 大東（第５次大東市総合計画および第２期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の進捗の検証にかかる諮問について

・大東市総合計画・総合戦略審議会について

・「幸せデザイン 大東（第５次大東市総合計画および第２期大東市まち・ひと・しごと創生

総合戦略）」の進捗の検証について
・その他

５．配布資料
資料１　大東市総合計画・総合戦略審議会規則
資料２　令和５年度 審議会委員名簿
資料３　「幸せデザイン　大東」令和５年度進捗検証報告
資料４　総合計画・総合戦略審議会　論点
資料５　総合計画・総合戦略 KPI・指標等一覧

６．その他
傍聴希望者　　　０名

７．発言要旨（協議または調整が行われた事項およびその内容）

【事務局】

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、新たに「大東市総合計画・総合戦略審議会」の委員となっていただきました皆様方におかれましては、このたびお引き受けくださり、誠にありがとうございます。この場をお借りして、御礼申し上げます。

それでは、只今から、令和５年度大東市総合計画・総合戦略審議会を始めさせていただきます。

はじめに、「大東市審議会等の公開に関する規程」第３条第１項におきまして、本審議会は公開する旨規定しており、傍聴を認めておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の会議要旨を後日ホームページ上で公開させていただく予定にしておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

なお、本日は、松本委員につきましては、欠席の旨ご連絡いただいております。また、澤登委員はオンラインでの参加となっておりますので、あわせてお知らせいたします。

（資料の確認）

それでは、会議の開催にあたりまして、野田副市長から一言ご挨拶申し上げます。

【副市長】

（あいさつ）

【事務局】

それでは、開催に先立ちまして、委員の皆様のご紹介のお時間を設けさせていただきたいと存じます。

昨年度の審議会で委員の委嘱をさせていただきましたが、新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、お一人ずつご所属とお名前を頂戴できればと思います。

【各委員】

（あいさつ）

【事務局】

（事務局紹介）

続きまして、総合計画・総合戦略審議会に対して、総合計画・総合戦略の進捗の検証にかかる諮問させていただきます。

【副市長】

「諮問書　大東市総合計画・総合戦略審議会 会長　三吉修様「幸せデザイン 大東（第５次大東市総合計画および第２期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の進捗の検証にかかる、貴審議会の意見を求めます。令和６年２月１９日 大東市長 東坂浩一」どうぞよろしくお願いします。

（諮問書の提出）

【事務局】
　副市長につきましては、このあと公務がございますため、ここで退室させていただきます。ありがとうございました。
　ここからは、大東市総合計画・総合戦略審議会規則第３条第１項の規定により、三吉会長に議事進行を行っていただきたく存じます。
　それでは、会議に先立ちまして、会長から一言あいさつをお願いします。

【会長】
　（あいさつ）

【会長】
　それでは、議事を進めてまいります。会議次第の審議会についての説明を事務局よりお願いします。

【事務局】
　（審議会についての説明）

【会長】
　次に、配布資料についての説明を事務局からお願いします。

【事務局】
　（資料の説明）

【会長】
　では、具体的な議事に入ってまいります。
　今、事務局より、市民意識調査の結果や総合計画・総合戦略に定められた目標値に対する今年度の結果や考察等について説明がありました。
　事前に論点についてお示しがされているかと思いますが、まずは、１点目として、全体を通じて、肯定的な意見が増加している要因や考えられることをお聞かせいただけたらと思います。
　２点目として、個別事項の項目の中で、ご関心やご意見があるものについて、お聞かせいただければと思います。
　全員からご意見を頂戴したいため、この２点をあわせて、お一人３分程度を目安に、お話しいただきたいと思います。全員にお話しいただいた後、フリートークの時間を設けますので、委員の皆様に対するご意見やご質問はその時にお伺いします。よろしくお願いいたします。

【委員】

住道中学校で開催された防災訓練でペットとの同行避難の訓練があり、どのように避難するべきかという説明をしていただきました。その際にペットはケージに入れてほしいとの話でした。ただ、犬や猫は、ケージに入るのを嫌がるため、ケージに入れる訓練も必要だと言われました。ペットと同行避難をするためにはペットへのしつけが必要だということをもっと啓蒙しないといけないと感じました。

また、自主防災訓練を実施した際に、消防団の訓練と日にちが重なってしまいました。そうなると、女性防火クラブ、消防協力隊、消防団が参加できないという状況になってしまいます。実際に災害等が起きた際に、万が一、消防関連の団体が参集できなければどうなるのかを知りたいと思っています。

【委員】

大東市は京橋や新大阪などへのアクセスがとても良いため、非常に便利な地域だと感じています。若い方が住みよいと思われるのもそういった点が関係しているのではないかと思います。

住道駅前には、大型マンションが建つことになっていますが、駅前デッキから商業施設を通らずにマンションに入ることができると聞いていますので、さみしいように感じました。可能であれば、駅前デッキに市役所の出張所などを出すことができたらいいなと思いました。

市役所の建替えにつきましては、市役所は耐震基準を満たしていないと聞いています。先日、能登半島地震があり、大東市もいつ地震が起きるかわからない状況ですので、早急に取り組んでいただきたいと思っています。

また、不登校の生徒が多いという話ですが、大東市に限らず今の不登校は環境だけの問題ではなくなっています。不登校特例校が全国に公立で１４校あるのですが、大阪府にはないようです。大東市には、アクティブ・スクウェア・大東という施設があり、そこには体育館もありますので、不登校特例校というものを一度考えていただけたらと思います。一方で、中学受験等をする子どもを支える必要もあると思っています。中学受験をする子は塾任せになっている部分がありますので、小学校に特進クラスのようなものを作るなど、さまざまな子どもを支える環境を考えてほしいと思います。

【委員】

２０歳代の肯定的意見が増えていることに関しましては、コロナ禍の影響で家にいる時間が多くなったり、地域に目を向ける時間が増え、満足度が増加したのではないかと思いました。

災害につきましては、先日、能登半島地震のボランティアに行き、現地の状況を見てきたのですが、実際のリアルな状況を市民に感じてもらい、当事者意識をもってもらえるようにすることで、「共助が足りない」、「コミュニティが繋がっていないといけない」と実感できるものだと思います。訓練などを通じて、そういう意識を醸成することが大事と感じました。

シティプロモーションのＰＲ強化を始めたところだということですが、インバウンドが京都や大阪市に集中し、消費が偏っていますので、万博などの機会を利用して、海外の方が来やすい日帰りのパッケージを作り、そののちに、宿泊施設の誘致をしていけばいいのではないかと感じました。

労働生産性つきましては、人材確保は各企業が苦労をされている問題です。一方で、大学生も就職先を

探している人が多いと聞いていますので、学生との接点づくりや、起業家支援がもっと充実したらいいと思いました。

【委員】
民生委員は欠員が増えてきています。また、民生委員に限らず、各種地域団体も人材不足となってきています。若い人の満足度が増えているとのことですが、若い人にどうしたら、地域のことに協力してもらえるかを考えていただきたいと思っています。若い方が引越をしてきたときに、その方と地域の人がコミュニケーションをとれるいい方法があればいいと思います。
防災訓練もマンネリ化をしていまして、参加人数が減ってきています。私はペットを飼っていますので、もし避難するとなれば、車で避難したいと考えていますが、車の避難についての訓練は実施されていませんので、どのような考え方になっているのかを知りたいと思っています。

【委員】
満足度の上昇については、市のシティプロモーションの部署を明確にして、市のブランドメッセージを発信したことが、情報に敏感な若い方に届いた可能性が高いと考えられます。大東市のポテンシャルとして、大阪中心地まで電車で20分という距離は有利な条件となっています。これは大きな強みですので、今後継続的に市の魅力として多種多様な方法で発信する努力を続けていくことが重要ではないかと思います。
また、防災アプリも、市民がリアルタイムで情報を確認することができるのは安心につながっていくため、いい取組だと思います。
シティプロモーションは各市、大変な競争になっていますが、その中で子育て重視の考え方は外せないものとなっています。大東市の目立つ、とがった政策を簡潔明確に伝えて、関心を引いていく努力が必要になってくると思います。「子育てするなら、大都市より大東市。」というブランドメッセージがとても良いと感じていて、非常に大切なメッセージであると思っています。
行政サービスのオンライン化につきましては、デジタル世代である市民や事業者にとって、快適な環境が整ってきたと言えますが、一方で高齢者や障害者などのデジタル弱者に対する対応をしっかり力をいれてしていかないといけないと思いますので、今後支援をお願いしたいです。

【委員】
資料５の一覧表を見たときに、評価Ａのものがほとんどないことに驚きました。目標値に達していないということですので、計画が遅れているという印象を受けています。ただ、Ｂが前年度より増加しているということですので、Ａへの過渡期と思いますが、計画とのずれがある印象を持ちました。
災害に関しましては、防災アプリでの発信をされていますが、実際に使ってみて、とても活用できると思っています。公共空間の活用の部分では、駅前で開催されているイベントも大変良いと感じています。子育てしながら働く環境におきましても、２０代から４０代の方の肯定的な意見が増加していますが、子育てしやすいまちに対しては４０代で否定的な意見が増えています。定住人口のターゲットが子育てや仕事をしている人ということですので、その世代の方たちや、今後その世

代になる方たちのご意見をもっと聞いてスピード感をもってご意向を達成していくことが必要だと感じます。インスタグラムをはじめとするＳＮＳの活用をやっておられるということですので、それらの活用をさらに行って意見を形にすることができたらいいのではないかと思いました。

【委員】
大東への関心を喚起し、ポジティブな印象を広げていくための方策として、子育て世代の誘致と絡めてご意見させていただきます。子育て世代及びその準備世代の誘致としまして、ＰＲ強化は非常に大切だと感じています。他の委員からの意見にもありましたが、大東市はある程度大きな都市で、大きな施設も整っています。また大都市にも近く便利な立地であり、自然にも囲まれているまちで、大変恵まれていると感じています。全体的な世代の誘致を図っていくことが必要だと思いますが、効率的に成果を出すためには、優先順位をつけていくことが大切だと思っています。
そして誘致に欠かせないことは発信です。インスタグラムや、特にＹｏｕＴｕｂｅを活用した発信で、人々に大東市で楽しく住めるイメージを持ってもらえる発信する必要があるのではないでしょうか。楽しく住めることをイメージしてもらうために何を発信するか、そのために何を整理すればいいのかを考えることで、優先順位が自然と決まって来るのではないかと思います。ＳＮＳを活用した発信は、本校の学生も協力できることがあると思いますので、何かあればお声がけください。

【委員】
前年度の数値と比較されていますが、計画策定時から比較すると満足度は下がっていますし、目標値と比較しても開きがあります。大東の将来の期待度につきましても、同様の開きがあります。住みたい自治体ランキングも目標に達せず、２年間ランク外となっています。市民の経済力の向上の部分でも、これまで府内平均以下となっています。
災害時の自助・共助・公助とありますが、そのためには地域のつながりが大事だと思っています。最近は自治会に入らない方もいますが、近所で人に会えば挨拶などをしながら、地域とのつながりをつくって、自治会に入ってもらうことも大切です。
今年度よりシティプロモーションの部署を位置付けたということですが、意外と大東市のことを知らない方が多いです。昔この辺りは海で、それが池になり、舟で渡っていたが、そこが古堤街道という道になったという歴史を少し知ると、もっと知りたいという気持ちにつながり、私の地域では今盛り上がっていますので、そういう機会を作っていったらいいと思います。
また、住道駅のエリアビジョンの策定を進めているということですが、住道駅から離れている地域に住んでいる人が駅に行ける手段を充実させることが大事だと思います。住道駅前デッキのロータリーだけでなく、下側にも商業施設などを入れて明るくする必要があるのではないかと思っています。
健康意識につきましては、ウォーキングの会を立ち上げるのがいいのではないでしょうか。最近の子どもは、長距離を歩けなくなっている印象があります。ボランティアの会や自治会と協力し合いながら、ウォーキングの会を立ち上げるなど、自治会の人のアイディアを聞いて進めていくのもいいのではないでしょうか。

【委員】

ＬＩＮＥの公式アカウントのことについてお話をさせていただきます。私は大東市、枚方市、守口市の市の公式アカウントを調査していまして、その結果、大東市の公式アカウントは充実していると思いました。具体的には、メニュー画面に公共施設の不具合を知らせるコマンドがあり、それは大東市だけに存在するものでした。この機能により、市民からの情報を効率的に収集でき、市民は電話をかける必要がなく、市役所職員の方も対応できるところがいいと感じました。さらに、観光イベントボタンにおすすめスポットという機能があり、市民から魅力的なスポットを集めることができるようになっています。また、日時や位置情報も入力してもらえるようになっているため、市民と協力して市を盛り上げることができるシステムが整っていると感じました。

ただ、大東市はＬＩＮＥ登録者数９，０００人と少なく、他の市では、枚方市が人口４０万人に対して９万人、守口市が人口１４万人に対して、４５，０００人となっており、比較すると少ないことがわかります。利用者を増やすためには、例えば大東市の携帯ショップで、スマートフォンなどを購入する際に、大東市の公式アカウントを追加したらメリットがあることを説明してもらうことがいいのでないかと思いますが、この場合はお店との連携が必要となります。また、飲食店などの来店ポイントカードを公式LINE に追加することで、地域活性化とともに公式ＬＩＮＥの利用者を増やすことができるのではないかと考えます。

利用者を増やすということにはなりませんが、せっかくこのような素晴らしい機能を導入されていますので、小学校や中学校で使われているタブレットにインストールはできないかもしれませんが、このような機能に対応したアプリを作成し、タブレットにこのアプリをインストールした上で配布し、授業でアプリの使い方を説明したり、親が学べる公開授業の機会を設けることもいいのではないと考えました。また、遠足で訪れた際に写真を投稿する機会を提供する等、市民がアプリを積極的に活用できるイベントを実施することもいいのではないかと思いました。

【委員】

総合戦略は５か年計画ですが、市長の選挙が４年ごとにあるため、毎年度の施政方針はあるものの、４年計画でしていくのがいいのではないかと思います。その他としては、総合戦略とＳＤＧｓを関連付けるべきだと思います。

大東市に住んでいる人が減っていますが、全国でも減っています。その中で一人ひとりのご意見は違うため、一人ひとりに意見を聞いていくことが大事です。意見を聞いている中で、住道駅付近ではイベントが多くていいという声も聞きますので、市内全域で平均的に行えるようなやり方を考えてもらいたいです。問題点を行政機関として検証していくことが重要です。

また、大東市役所の職員は４割しか大東市に住んでいません。まずは職員に大東市に住んでいただき、様々な施策を進めていただきたいです。

【委員】

意識調査の調査時期が１１月ということで、新型コロナが５類になり、これまでの若者の鬱屈した状態から解放されたということが影響して、良い結果が出ているように思いました。

災害時の自助・公助・共助につきまして、能登半島地震のような大規模災害が起きたときには、自助・公助というものはあまり期待ができない中で、共助をどのように高めていくかが大切なこととなってい

ます。先ほどもありましたが、地域コミュニティの核となる自治会が、役員のなり手不足だけでなく、加入者自体が減少している状況ですので、地区担当職員を継続しながら、自治会の維持に努めていただきたいと思います。また、消防団も２つ廃団になったと聞いています。共助の意味でも消防団の維持は大切だと思っています。

住道駅周辺エリアにつきましては、交通利便性が高いので、目的があれば大阪市内などに行かれると思いますが、非日常のふらっと立ち寄れる賑わいである、大東ズンチャッチャ夜市やモノ市などを継続していただきたいと思っています。

子育てしやすいまちにつきましては、４０代の否定的な意見が増えているということですが、４０代は子どもが小学校高学年、中学生に上がるという時期になりますので、教育費の負担が大きくなると思います。例えば市独自の施策として、大阪市が実施している塾代補助のような教育バウチャー的な施策を進めていただきたいと思っています。

最後に行政サービスのオンライン化についてですが、デジタル化が進んでも、デジタル化に対応できない方を高齢者と仮定すると、ワンストップで歩き回らなくてもいいコンシェルジュ対応のようなものが必要なのではないかと思っています。

【委員】

総合計画は１０か年、総合戦略が５か年計画となっていますが、その目標をどうやって達成していくかということを企業や市民に対して伝えていくことが大事だと思います。また、行政が企業とつながりを持つ中で間接的に人口の流入や企業の誘致に誘導してもらいたいと思っています。

今後におきましては、子育てや教育に力をいれていただきたいです。大東市は交通の便がよい、立地がいいということを知ってもらうことで人口流入や企業の誘致に優位に働くのではないかと思います。ただ、近隣自治体とのレースになってしまうと人口の取り合いになってしまうので、抜きんでた先進事例を取り入れながら、計画を達成していけたらと思います。

【委員】

防災についてですが、若年層の満足度が増加しているのはいい傾向になっていると実感しています。防災アプリの開始がいい結果につながっているのではないかと感じています。最新の情報では、登録者数がまもなく６０００人を突破しそうだと聞いています。公式ＬＩＮＥに迫る勢いで登録者数が増えているということですので、順調な滑り出しだと思っています。今後は、防災アプリを有効活用して公助の体制をどれだけ推進していけるのかがカギとなります。

また、大東市の特性にあわせた危機意識や災害リスクの共有が必要だと思います。大東市の東部地域に土砂災害警戒地域が約１２０か所ありますし、東部に生駒活断層があり、地震が起きると能登半島と同規模くらいの地震が起きます。西部地域では水害などの恐れがあります。そういったリスクを受け止めて、共有しながら、地域特性に応じた地域計画を立てて、体制を作っていくことが重要になっていきます。市民の皆様に満足していただける取り組みを進めていきたいです。

【会長】

ありがとうございました。今各委員からご発言をいただきましたが、各委員に対して、聞きたい

ことや議論を深めるようなご意見、もしくは資料４の論点以外のことでも結構ですので、何かご意見はありますか。

【委員】

自治会では、自治会員の皆様から集めた会費を地域の団体の助成金として利用したり、防犯カメラや防犯灯の設置費用に充てています。今まで自治会に入っていなかった方でも自治会費の使途をお伝えすれば、半分くらいの方が加入してくれますので、引き続き自治会加入に向けて声をかけていきたいと思っています。

また、地域防災として消防団がありますが、消防団がなくなっている地域もあります。消防団の是非についても検討が必要なのではないかと考えています。

【会長】

消防団と消防署は異なっており、自警的に立ち上がったものが消防団となります。消防団は火災等が発生した際に消防署より先に対応することが期待されますが、日中は市外で勤務している団員も多く、体制の確保が難しい状況と聞いています。今は消防署が充実してきており、なおかつ大東市はコンパクトな街でもありますので、その中で消防団をはじめとする自警団の活用の見直しも必要になってきている時期に差し掛かっているように感じます。

【委員】

私は、消防団は地域のために活動していただく大事な組織であると思いますので、存続した方がいいと考えています。

【会長】

先ほど委員から災害リスクのご意見がありましたが、大東市の東部地域は生駒活断層の脅威があり、一方で、西部・南部地域は寝屋川の氾濫の恐れがあるとご意見をいただきました。大阪はかつては川の氾濫が多く発生していました。今では様々な改修を行い、氾濫のリスクが激減したのですが、大規模地震が起きて、津波が発生した際には寝屋川の逆流が起きる可能性もあります。そういった地震や津波のリスクがあるということを認知しておかないといけないと感じました。

【委員】

大東市の災害リスクを地域の特性と合わせて理解していただくような発信をするべきではないかと考えています。現在は地下河川の整備が進んでおり、昭和中期頃に発生したような寝屋川の氾濫リスクはかなり減少していますが、最近では全国で線状降水帯の被害が発生しています。万が一、大東市で線状降水帯が発生した場合の問題提起もされているところですので、大東市が配信している防災アプリ等でハザードマップをご覧いただき、事前の備えとしていただくことが必要だと考えています。

【委員】

大東市は、縄文時代や弥生時代は東部の山間部以外の平地は海でした。そういった過去の地理的環境がある中で、銭屋川に配水場を作ったり、深北緑地などの貯留池や増補管を作ったりしています。また、住道駅付近に可動式の橋がありますが、全国的にも非常に珍しいものと聞きました。さらに大東市には江戸時代につくられた樋門も６か所残っています。３０基以上のポンプ場もあります。そういった歴史とあわせて、水害に対する大東市の取組を魅力として発信することが大事だと考えています。

【会長】
大東市の歴史的経緯、環境、それに対応してきた人々の努力を現在の市民にも知らせることによって、安心感も高まると思います。

【委員】
大東市には地下貯水池がありますが、こういうものをもっとＰＲしたらいいと思います。大東市と言えば何かとなったときに、野崎まいりや大阪桐蔭高校がありますが、それだけではさみしいので、大東市と言えばこれというものを見つけてほしいと思います。

【会長】
大東市にお住まいの人と市外から大東市に来られる人では、大東市に対して持つイメージが大きく異なります。大東市で生活していると、なかなか大東市の良さがわからないという問題があります。
一方で市外の方からは、大東市ってどこにあるのと言われることがあります。大東市外に住む方に認知してもらえるような施策を進めていないといけないのではないかと思います。
大東市は、面積が小さく利便性が高いという利点があります。先ほど委員から大東市職員は４割しか市内に住んでいないという意見がありましたが、市外に住むということは客観的な視点で大東市を見ることができるというメリットもあります。また、先日の地震の際には、多くの職員が市役所に参集したとも聞きました。緊急時にはしっかりと対応できているという安心の事例の一つだと感じました。

【委員】
災害の話が出てきますが、市役所の本館は耐震基準を満たしていません。１０年ほど前から移転するのか、今の場所で建替えをするのかという議論がなされていますが、能登半島地震クラスの地震が起きた場合、市役所の本館が潰れてしまう可能性があります。そうした場合、市民サービスは完全に止まってしまいます。この議論が１０年もかかっているのはなぜでしょうか。

【事務局】
現在は大東市庁舎整備基本構想を基に議論を進めているところで、本館につきましては耐震補強をしてリノベーションを行います。さらに本館の南側に増築棟を建設するという方針で進めているところです。先日も特別委員会が開催されたところであり、デジタル化の要素を含めた内容で新庁

舎の整備を迅速に進めるべきだと認識しております。

【会長】
立派な市役所に建替えることが一番いいことだとは思いますが、財政的な問題があります。大東市内には空家が約８０００戸あり、民家においても耐震化されていない家が多くあります。法律で耐震化を義務付けられたのは1980年代ですので、それ以前の家は耐震化されておらず、能登半島地震のおいても倒壊しているのは耐震化されてなされていない家が多いという状況でした。すべての建物に耐震化を施すことはできませんので、大東市役所だけが立派になって、市民の生命や生活が疎かになってはいけないという兼ね合いがあるかと思います。

【委員】
私は、市役所の建替えは重要だと思っており、市役所をコンパクトなものにするのではなく立派なものを建てる方がいいと考えています。災害が起きた際には、市役所を避難の拠点にするのもいいと思いますので、そういったものを考えていただきたいです。

【会長】
委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。それでは、本日の議題は以上で終了させていただきたいと思います。
なお、本日の皆様からのご意見を踏まえ、答申として取りまとめを行いたいと思います。この答申につきましては、一旦、案として取りまとめ、書面上で皆様にご確認いただくことを予定しています。皆様にご確認いただいたあとの最終の答申につきましては、私に一任していただくということで、よろしいでしょうか。

【各委員】
異議なし

【会長】
皆様、ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】
三吉会長、ありがとうございました。皆様、ありがとうございました。
本日皆様から頂戴いたしましたご意見につきましては、今後の本市の取り組みにつなげていけるよう、審議会の議事として公表するとともに、答申は庁内各課にも周知することを予定しております。
本年度は、皆様に集まっていただき意見交換をしていただく会議は、本日の１回のみとなります。このあと、答申案の確認及び、出来上がった答申のご報告など、都度ご連絡を差し上げたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。なお、任期は本年の３月末までとなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

　また、来年度は総合計画・総合戦略の改訂を予定しておりますので、今回頂戴します答申を参考にしながら、改訂作業を行ってまいります。

　それでは、これをもちまして会議を閉会いたします。皆様方には、お忙しい中ご参加いただき、また貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。